

## 第118回日展

### 第3科（彫刻）特選授賞理由

題名	作者名	題名	作者名
<b>約束の街</b>	<b>芦田風馬</b>	<b>春うつつ</b>	<b>園田陽菜</b>
<b>授賞理由</b>		<b>授賞理由</b>	
堂々とした姿で一点を見つめる男性像を確かな造形力でまとめ上げている。ジャケットの中にも量感や緊張感が感じられる。静かな立ち姿に内面の力強さと未来を見つめる意志が感じられ、見る者に深い余韻を残す。		柔らかく大らかな身体が雲の上に浮かぶ。端部の細やかな形は溶け入り、全体で一つの形態となるようにまとめられ心地よい。丁寧に研ぎ出された乾漆の肌合いも美しく、軽さのある量感の中に極めて高い密度を感じさせる。	
<b>臨</b>	<b>加藤真浩</b>	<b>すべての物語の少女たちへ</b>	<b>高石麻代</b>
<b>授賞理由</b>		<b>授賞理由</b>	
男性像としての力強さの中に静謐な美しさが漂う。わずかに前傾した姿勢が、内に秘めた確固たる決意を感じさせる。綿密に構成され、見る者に迫ってくる緊張感のある作品である。		凛と立つ鹿の背に書物が積み重なり、物語の一場面を思わせる。確かな造形力を芯としつつ、紙塑によるモデリングが淡く柔らかな存在感を醸し出している。彩色も美しく、炙り焼いたり箔を散らせる遊びが効果的で、見るものを惹きつける。	
<b>曙光</b>	<b>神谷睦代</b>	<b>揚々</b>	<b>町野紗恭</b>
<b>授賞理由</b>		<b>授賞理由</b>	
少しうつむいた顔から足元への流れるようなフォルムと、左右の手の表情により、優しい朝の光が感じられる。単純化された着衣の表現など、作者の感性と技量が十分に生かされた作品になっている。		豊かな量感、彫刻的堅牢さに加え、伸びやかで、瑞々しい形態が実現されている。また、対象となるモデルを構造的に捉え、ダイナミックに構成され、彫刻芸術の本質的な在り様を示すものとして存在感を放っている。	